

各管区警察局長
警視庁交通部長
各道府県警察本部長
各方面本部長
(参考送付先)
警察大学校交通教養部長
科学警察研究所交通科学部長

原議保存期間	10年(令和17年3月31日まで)
有効期間	一種(令和12年3月31日まで)

警察庁丁運発第63号
令和7年2月28日
警察庁交通局運転免許課長

上級運転適性検査・指導者に係る審査要領、審査基準等について(通達)
上級運転適性検査・指導者に係る審査要領、審査基準等については、「上級運転適性検査・指導者に係る審査要領、審査基準について」(令和6年3月4日付け警察庁丁運発第38号)に基づき実施しているところであるが、この度、道路交通法の一部を改正する法律(令和4年法律第32号)の施行に伴う所要の改正を行い、令和7年3月24日から運用することとしたので、事務処理上遺憾のないようにされたい。

なお、前記通達は、同日をもって廃止する。

記

1 審査目的

上級運転適性検査・指導者に係る審査は、運転適性検査・指導業務の指導的立場に立つ上級運転適性検査・指導者としてふさわしい知識及び実務能力を有しているか否かを確認するために行うものとする。

2 審査要領

審査問題は、下表の左欄に掲げる審査項目に応じ、それぞれ同表の右欄に掲げる審査細目について、択一式、補完式又は正誤式の筆記試験により行うものとする。

試験問題の出題数及び所要時間は、正誤式にあってはおおむね40問・30分、択一式及び補完式にあってはおおむね20問・30分程度を目安とする。

なお、審査方法については、上記方法のほか、客観的評価が可能な方法があれば、それによることとしても差し支えない。

また、審査は、これを受けようとする者に係る教養を受けた者を対象に行うものであることから、審査の実施時期としては、当該教養を行った後遅滞なく実施すること。

審 査 項 目	審 査 細 目
運転適性検査の仕組み	1 運転適性に関する知識 2 各種運転適性検査の用途 3 心理検査に係る統計上の基礎知識
運転適性検査実施実習	1 適切な検査実施要領 2 採点、評価値算出及び診断票作成要領
運転適性検査結果の読み方と指導実習	1 運転適性検査で測定している要素 2 カウンセリング手法に基づいた指導要領
運転適性検査取扱い上の留意事項	1 検査結果の適正な取扱い・管理 2 指導者に求められる資質・資格 3 運転者教育における運転適性検査の役割

3 審査基準

合格基準は、90%以上の成績であることとする。

4 審査問題作成上の留意事項

審査問題は、審査を受けようとする者に係る教養の内容を踏まえつつ、別添に示す例題を参考に作成すること。

5 その他

- (1) 審査に不合格となった者については、再度教養を受けさせた上で審査を行うものとする。
- (2) 審査問題の保管について万全の措置を採るとともに、適宜問題の差替えを行うなどしてその適正な管理を行うこと。

別添

上級運転適性検査・指導者審査問題例題

● 運転適性検査の仕組み

1 運転適性に関する知識

ア 運転適性の考え方は、ある作業を実行する際に事故やミスを多く繰り返す（ ）者の発見に始まり、自動車運転においても将来事故を起こす可能性の高い者を見つけることが要求された。

※ 補完式 正解＝事故多発

イ K型運転適性検査は、心理的原因により交通事故を起こしやすい運転者を比較的容易に発見し、安全運転管理及び運転者教育に役立てることを主な目的として作成された。

※ 正誤式 正解＝○

2 各種運転適性検査の用途

ア 取消処分者講習においては、科警研編（ ）運転適性検査が使われている。（ ）の下位検査から成るこの検査は、約47分を要する。

※ 補完式 正解＝73－C，12

イ 運転免許証又は免許情報記録の更新時講習に利用されている『安全運転自己診断』は、攻撃的運転傾向やイライラ傾向など運転中の心理的な状態を測定し、診断するものである。このような検査は、一般に（ ）と呼ばれる。

1 性格検査 2 態度検査 3 知能検査 4 意識検査 5 アンケート

※ 択一式 正解＝2

3 心理検査に係る統計上の基礎知識

ア 運転適性検査を含めた心理検査は、同じ人が何度か受検した場合でもほぼ同じ結果が出ることが要求される。このことを、心理検査の（ ）性という。

※ 補完式 正解＝信頼

イ 心理検査や試験結果の評価方法のうち、（絶対・相対）評価は、ある人の得点とその所属する集団のなかの他者との比較においてどの位置を占めるかを判定するものである。

一方、（絶対・相対）評価は、評価しようとする一定の目標が達成されているかを判定し解釈する方法である。（絶対・相対）評価の例として、運転免許を取得するための技能、学科試験があり、（絶対・相対）評価の例としてK型運転適性検査がある。

※ 択一式 正解＝相対・絶対・絶対・相対

● 運転適性検査実施実習

1 適切な検査実施要領

ア 運転適性検査を適切に実施することは、非常に重要である。これに関して、誤っているものをひとつ選べ。

- 1 検査時間を正しく計測し、かつ厳守する。
- 2 集団で検査を実施するとき、受検者数を適正な人数に保つ。
- 3 実施時間は、午前中でなければならない。
- 4 受験者ひとりひとりが持つ力を最大限に発揮できるよう配慮する。
- 5 室内の明るさや、机、筆記用具など、実施場所の環境を整える。

※ 択一式 正解＝3

イ 検査実施者の態度として適切なものに○を、不適切と思われるものに×をつけよ。

- 1 受検者から検査方法について質問があっても、答えなくてよい。
- 2 受検者に検査の検出項目を教えてもよい。
- 3 受検者には各検査時間を教えない。
- 4 検査内容を理解していない受検者には、練習時に十分に習得させる必要がある。
- 5 検査実施者は、教示を徹底させるため、威圧的な態度をとっても構わない。

※ 正誤式 正解＝順に、××○○×

2 採点、評価値算出及び診断票作成要領

ア 動作性能の特徴のひとつとして、動作の（ ）と比べて動作の（ ）の判定値が極端に高いと、衝動抑止性の評価値が低くなる仕組みになっている。

※ 補完式 正解＝正確さ、速さ

イ K型検査を使って総合判定値を出すまでの過程について、誤りをひとつだけ挙げよ。

- 1 検査3（斜線引き）や検査6（三角形書き入れ）などでは、指定された枠以外にも作業をしていれば、その分も作業量として加算し評価値を算出する。
- 2 検査2（原図と同じ図形を見つける）と検査5（減算計算）では、受検者が訂正した後の回答が正解であれば、粗点として加算する。
- 3 検査7の自己顕示性の評価値が1であった場合、検査7の他の評価値全てから1を減じる。
- 4 検査1から7までの評価値がすべて3か4であったならば、総合判定値は5にならない。
- 5 下位検査の粗点が同じでも、受検者の年齢が違っていると評価値が異なることがある。

※ 択一式 正解＝4

● 運転適性検査の読み方と指導実習

1 運転適性検査で測定している要素

ア K型検査の検査7では、自動車の安全運転に深い関連のある性格要素として、感情高揚性、自己顕示性、非協調性、（ ）、（ ）、（ ）を測っている。

※ 補完式 正解＝神経質傾向、攻撃性、回帰性（もしくは抑うつ性）
（順不問）

イ K型検査などの診断票にある性能別判定の中でも最初に注目すべき要素で、指導順位が最も高いのは（ ）である。

※ 補完式 正解＝状況判断力

2 カウンセリング手法に基づいた指導要領

ア 性格検査の中で、最初に着目すべき要素は考え事などにとらわれやすい（ ）であり、この評価値が低い者は、運転場面に集中できないために判断ミスやぼんやりが生じると考えられる。

※ 補完式 正解＝神経質傾向

イ カウンセリングを進めていく際、指導員と受講者との間によく生じる現象として、「沈黙」があるが、お互いに確認し合う意味合いの良い沈黙がほとんどである。

※ 正誤式 正解＝×

● 運転適性検査取扱い上の留意事項

1 運転適性検査の適正な取扱い・管理

ア 運転適性検査用紙（診断票も含む）の保管・処分方法について正しいものを2つ選べ。

- 1 名前など個人情報があれば一般のゴミとして廃棄処分する。
- 2 採点処理後の検査用紙は、全く不要である。
- 3 採点処理した検査用紙を事務机上に放置せず、厳重に管理する。
- 4 受検者から問い合わせがあれば、検査用紙を練習用として実施前に配布する。
- 5 K型検査購入の申込みに対しては、「K型検査指導者資格者証」の有無を確認する。

※ 択一式 正解＝3、5

イ 運転適性検査の検査結果の取扱いについて、正しいものをひとつだけ選べ。

- 1 個別面談のような形式で、受検者に直接会って検査結果を伝えるのが望ましい。
- 2 電話で検査結果の問い合わせがあった場合、受検者本人には判定値などの結果を伝えて構わない。

- 3 受検者の雇用者から問い合わせがあれば、受検者に関する情報は全て伝えてよい。
 - 4 集団指導する場合には、他の人の前で個人の検査結果を発表してもよい。
 - 5 個人指導する場合には、相手の短所のみを強調して指摘する方がよい。
- ※ 択一式 正解＝1

2 指導員に求められる資質・資格

ア 運転適性検査・指導者資格者証の交付を受けた後、運転適性検査業務に従事した経験期間がおおむね（ ）年以上の者で、規定の教養を受け、その後審査に合格したら、上級運転適性検査・指導者資格者証を交付される。

※ 補完式 正解＝5

イ 運転適性検査を使った指導を行う者は、科警研編運転適性検査73－1による検査において、（ ）以上の総合判定を受けた者、又は（ ）の総合判定を受けた者で精神的活動性の判定値が4以上でなくてはならない。

※ 補完式 正解＝4、3

3 運転者教育における運転適性検査の役割

ア 運転適性検査を活用した指導方法に関して、正しい記述内容の選択肢を3つ選べ。

- 1 検査結果が診断票にわかりやすく書いてあっても、受検者に診断票を渡すだけでは不十分である。
- 2 検査結果を正しく読み取ることができれば、誰でも運転適性指導をすることができる。
- 3 マニュアルに従ってさえいれば、検査結果に基づく指導方法はどの受検者に対しても同じでよい。
- 4 検査結果と運転行動の観察を組み合わせることにより、より効果的な指導ができる。
- 5 運転適性検査・指導者には、心理学など関連する専門知識がある方が望ましい。

※ 択一式 正解＝1と4と5

イ K型検査の検査7には、てんかんや精神分裂病等の検出用項目が含まれるが、○回答をつけた者に対して即断をするのではなく、面接や行動観察を充分行った上で適切な処置をすることが望ましい。

※ 正誤式 正解＝○